



社会保障分野における安全で利便性の高い 情報連携が地域住民にもたらす効果に関する 検証成果について

～社会保障カード(仮称)の制度設計に向けた実証事業～



平成22年8月31日

いずも医療カード利用推進コンソーシアム

1. 実証事業の概要

1. 1) 本事業の目的

事業の目的

社会保障カード(仮称)の仕組みを利用した

先進的な地域医療連携モデルの検証

～地域医療ネットワーク「医療ネットしまね」をベースとして～

期待する効果

- ・中継DB基盤の構築
- ・システム、ルール等の運用

- ・社会保障制度における利用者自らの情報の可視化、透明化
- ・効率的にきめ細かなサービスの享受

検証項目

- ①医療現場におけるICカードの利便性・安全性・効率性
- ②地域医療連携への中継DB基盤等の適用の有効性
- ③組織・制度面で必要な取り組み
- ④将来の社会保障カード(仮称)の導入に向けた課題等抽出

構築した「仕組み」の継続的・発展的活用

1. 2) 本事業の特徴

特徴

- ① 医療分野での実証 (医師会が主体、共通診察券的なカード)
- ② 既存の地域医療ネットワークを活用 (医療ネットしまね)
- ③ 住民側から入力、更新を行う機能の実装 (診療予約)
- ④ 2種類のカードの制作 (一般利用者用／医療従事者用)



【医療ネットしまね】

電子カルテシステムをベースとした地域医療と遠隔医療を支援するシステム。

感染症の早期検知、特定健診の支援など、主に医療機関の間で利用が浸透している。

- ①参加医療機関233施設、②患者紹介542件/月、③診療予約(診療所→病院)149.1件/月、④島根県立中央病院のカルテ開示 54.5件/月、⑤診療所のカルテ開示7.6件/月

数値は2010年7月末現在

※出雲医師会にて代行入力の施設含む

1. 2) 2種類のカードの制作

◆医療機関で患者情報を見るときにセキュリティ保護のために、医療従事者用のカードを制作（2種類のカード）

住民用「いずも医療カード」



【交付方法】

- ①参加医療機関(12か所)で交付 ……728枚
- ②職域で交付 …… 1,288枚

※簡易書留にて郵送(交付)

医療従事者・管理者用「いずも医療カード」



【交付方法】

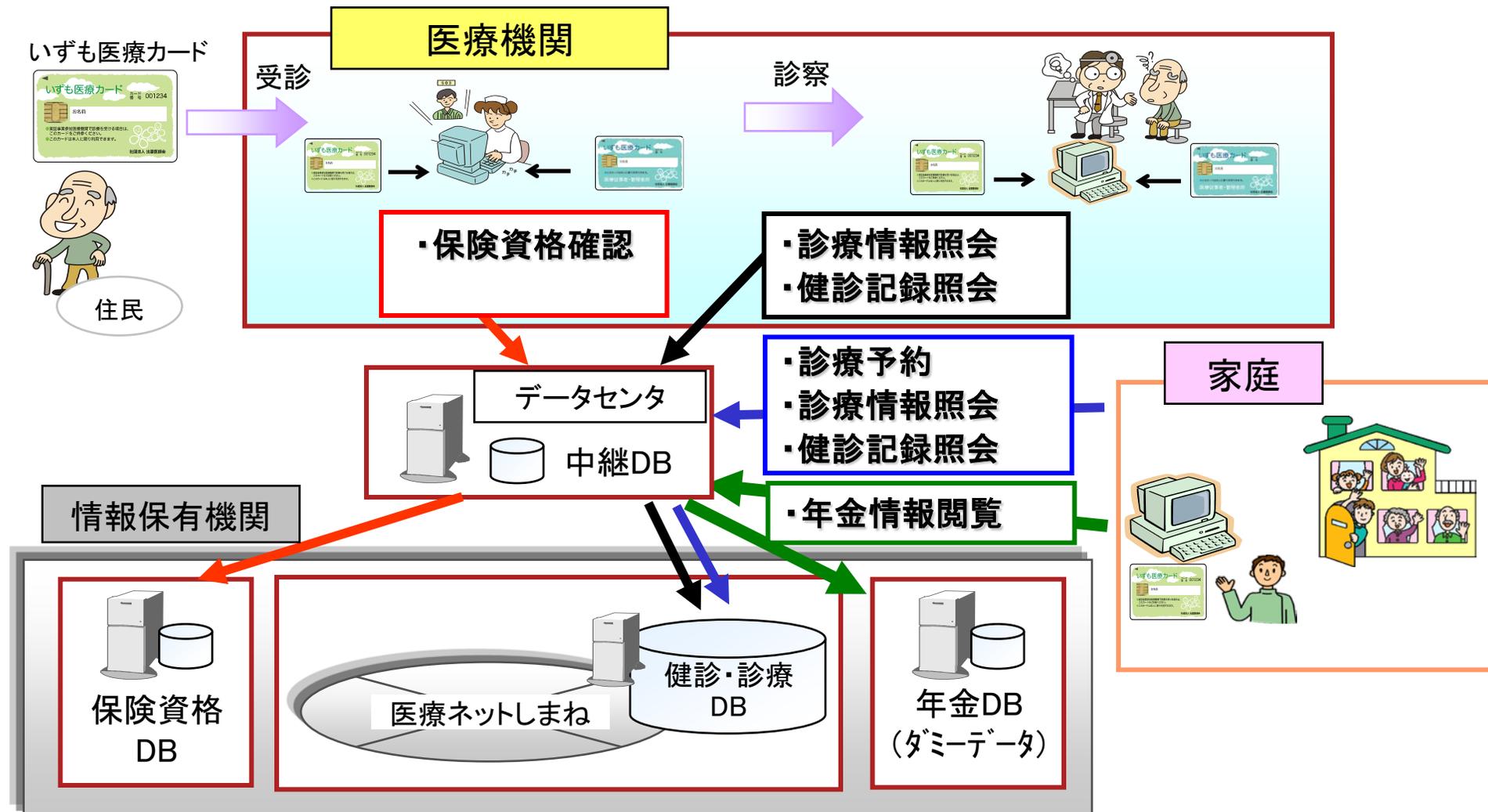
出雲医師会に交付申請 …… 197枚

【カード種類】(各種情報へのアクセス権限が異なる)

- ①医師用
- ②医療機関事務職員用
- ③システム管理者用

1. 2) いずも医療カードを利用した地域医療連携モデル

◆ 社会保障カードをアクセスキーとして、中継DBを介したセキュリティと利便性のある医療機関-利用者、医療機関間の情報共有・連携を実現

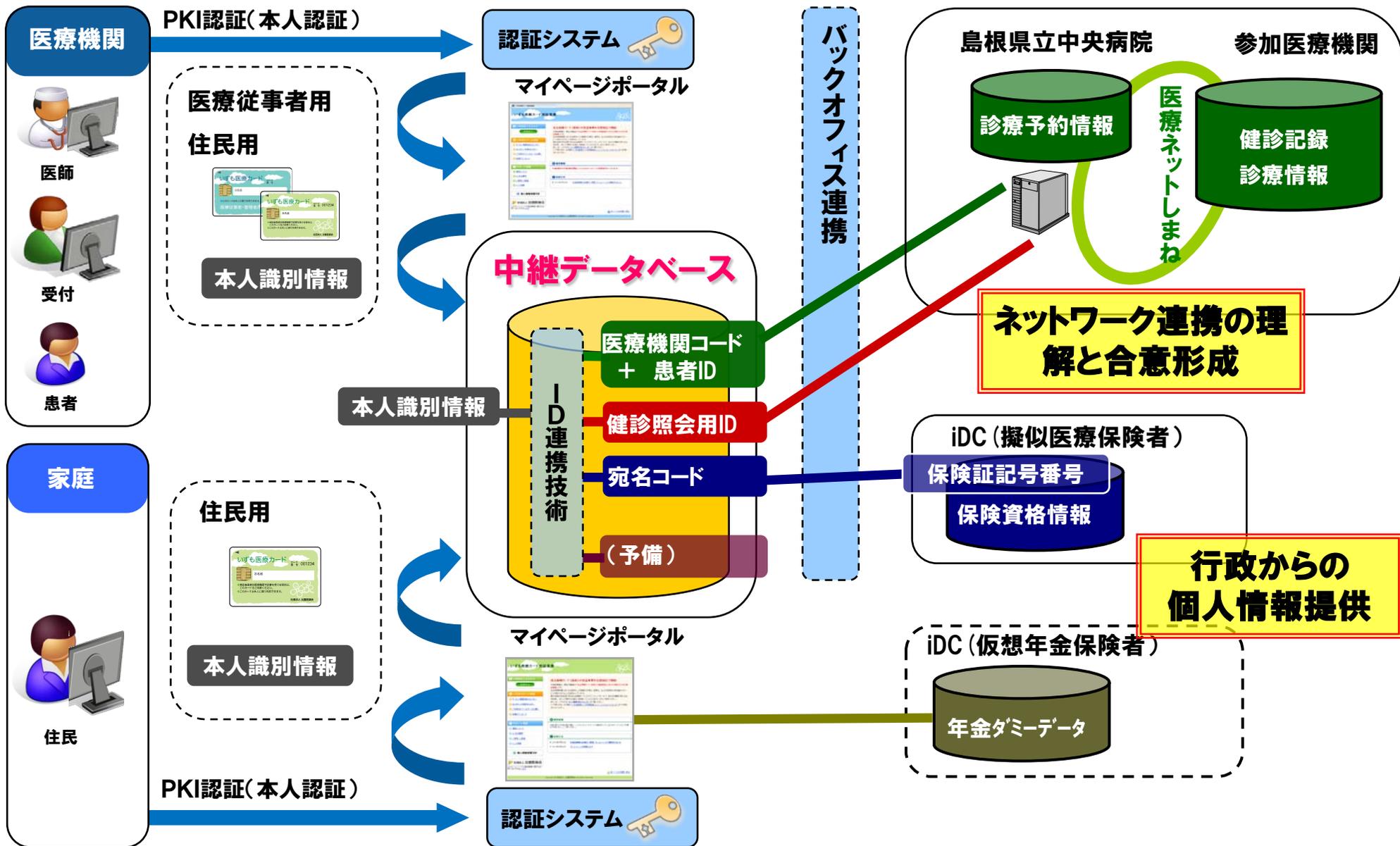


1. 2) 実証フィールド



2. 実証結果の考察と知見

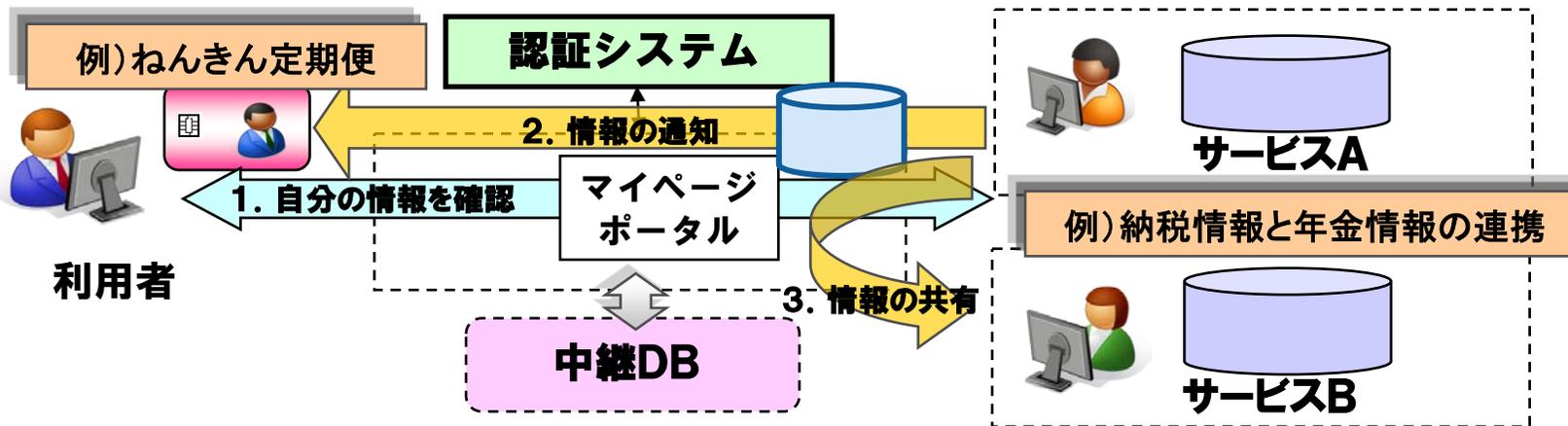
2. 1) 情報連携のしくみ



2. 2) しくみの検証と提言

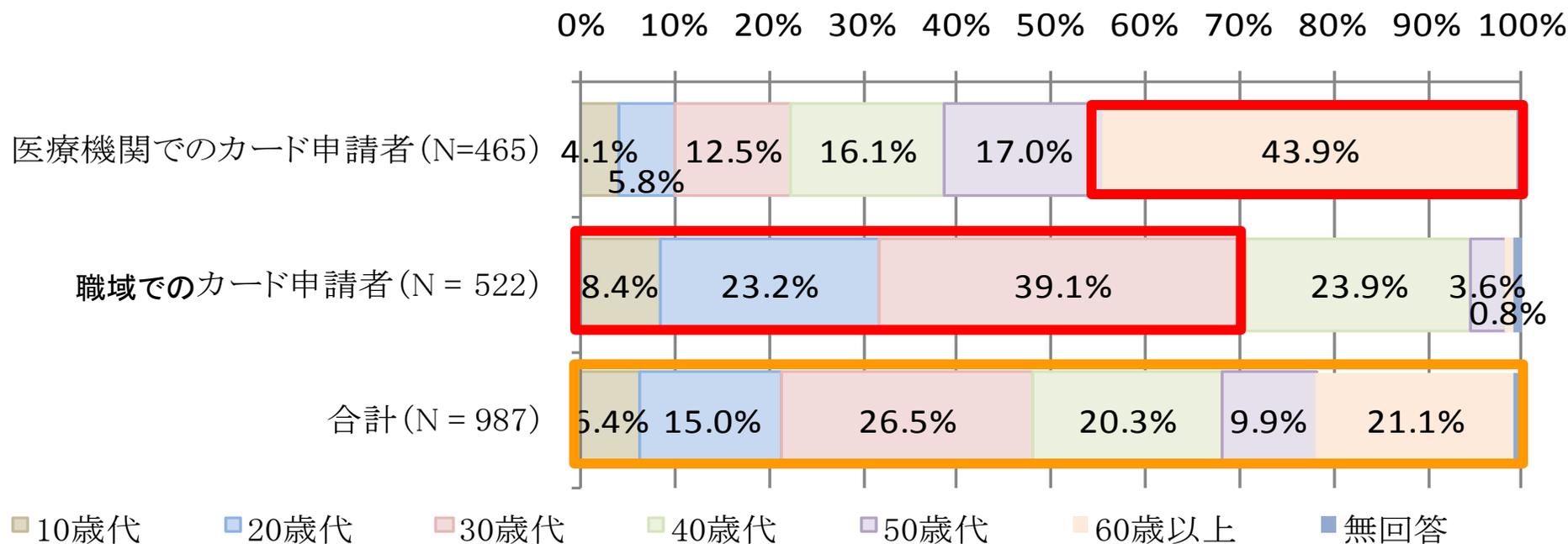
◆中継DBとマイページポータルは、近年の政策課題への解決手段として有効な技術と考えられる。

検証	1.如何に自分の情報を確認するか	本実証で、ICカードによるPKI認証や中継DBシステムが有効であると検証できた。 例：①医療情報(診療情報、健診記録) ②保険資格情報
提言	2.如何に利用者に情報を通知するか	マイページポータルを通じて、各サービスから利用者へ情報を通知 例：①ねんきん定期便 ②医療費通知 ③特定健診結果通知
	3.如何に業務間で利用者情報を共有するか	中継DB機能を利用して、サービス間で利用者情報を共有、参照 例：①納税情報と年金情報の連携 ②地域医療情報と特定健診情報の連携
	4.利用者IDは、民間サービスに使えるのか	新たなサービスに対応してカードに新アプリを入れる必要がないため、民間サービス(全国共通サービス、地域サービスなど)への拡張が容易



2. 3) 利用者からの評価（回答者の年齢層）

- ① 医療機関でのカード申請者は、60歳以上が4割を超える。
- ② 職域を通じての申請者は職員・社員および家族であり、若い年齢構成。
→全体(合計)では、10～20歳代も含め、バランスのとれた年齢構成となった。

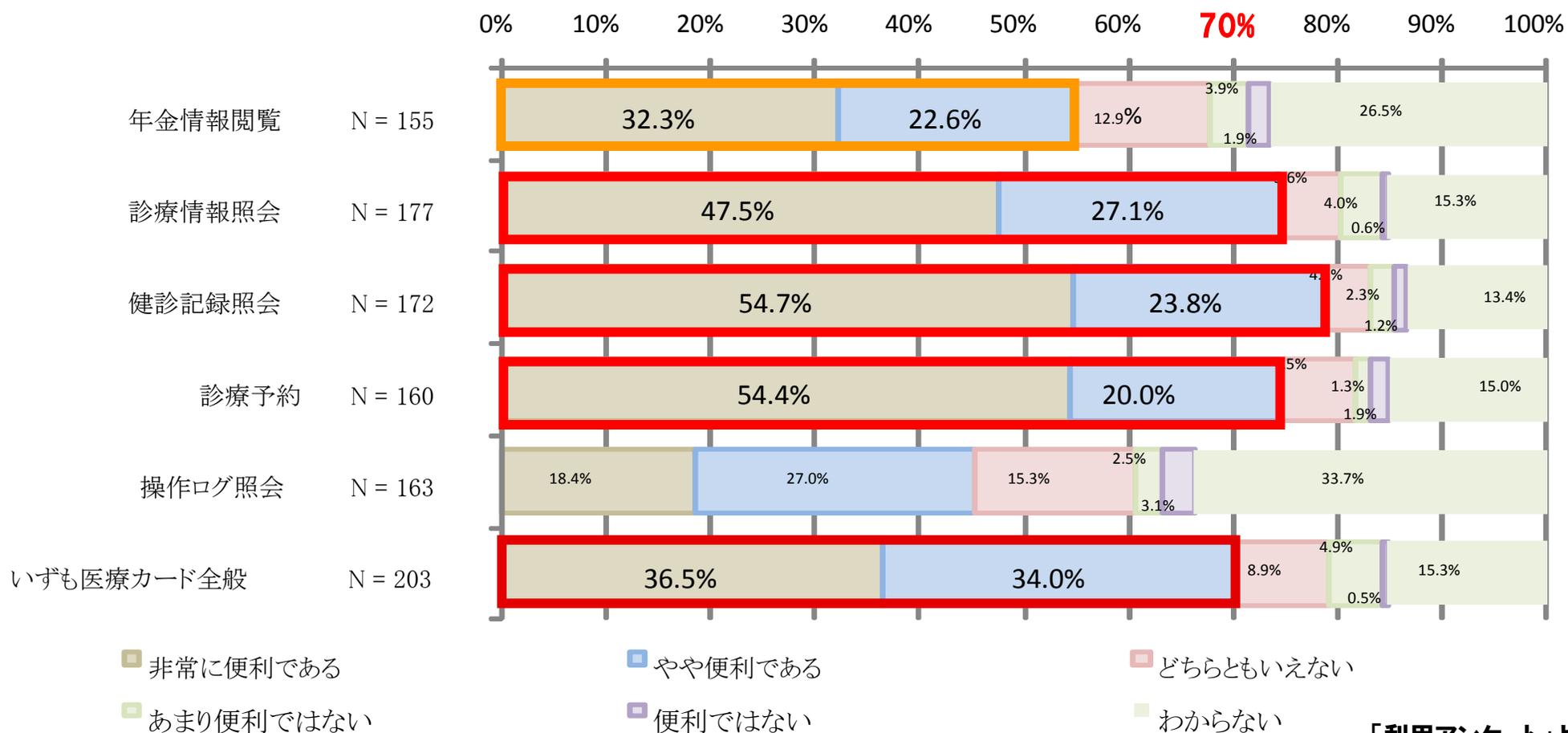


(注)「利用していない」及び無回答を除きグラフを作図している。

「初期アンケート」より

2. 3) 利用者からの評価（サービスの利便性）

- ① 「診療情報照会」、「健診記録照会」、「診療予約」は、7～8割が便利であるとしている。
カード全般についても7割が便利であると回答している。
- ② 年金情報閲覧はダミーデータにも関わらず、5割強が便利であると評価している。



「利用アンケート」より

2. 3) 利用者からの評価（利用メリットに関する自由回答）

【サービス・機能への評価】

◆ 診療情報照会サービス

- 検査結果について後からじっくり確認し、ネットなどで情報を得て、状況を把握・納得することができた。
- 島根県立中央病院に入院したので、かかりつけ医に知らせに行った時、情報がすぐに見れた

◆ 健診記録照会サービス

- 健診結果を医療機関に聞きに行く必要がなく、自宅で確認できた。

◆ 診療予約サービス

- 電話しなくても予約日を確認、変更できる点良かった。

◆ 診療カレンダー

- いつ、どこで、どのような診療を受けたか分かる。

【サービス全般への評価】

◆ 自宅のパソコンから利用できた

- 家族にも診療結果を知ってもらえる

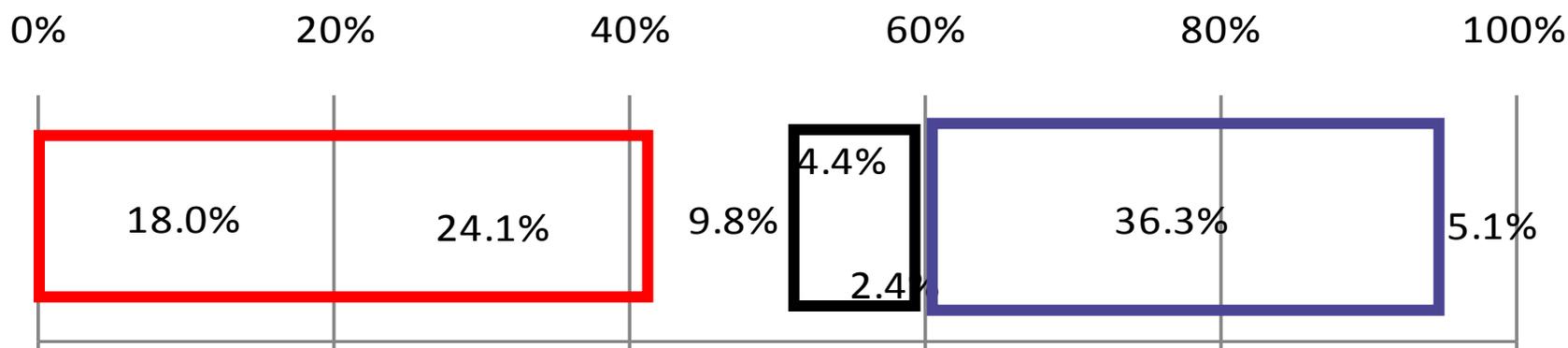
◆ 安全・安心

- 緊急の時も安心でいられる
- 複数の医療機関を利用している場合、薬の事故が防げる

「利用アンケート」より

2. 3) 利用者からの評価（サービスの安全性）

- ① 安心して利用できたとする回答が(42%)と、不安(6.8%)を大きく上回り評価は高いが、さらに不安を解消するための取り組みが望まれる。
- ② 「わからない」も1/3を超え、Webサービスの安全性に関する啓発等がさらに必要。



- 安心して利用できた
- どちらかという安心して利用できた
- 安心して不安もどちらも感じずに利用した
- どちらかという不安を感じて利用していた
- 不安を感じて利用していた
- わからない
- 無回答

「利用アンケート」より

2. 3) 利用者からの評価（医療機関ヒアリング）

【先進的なITへの認識について】

- ◆ ICカードの利用やPIN入力の実体験を通じてセキュリティの意識が高まった
 - 個人情報を守りつつ、利便性を高める仕組みを認知できた
 - 既存ネットワークのセキュリティ水準について振り返りができた

【医療資格確認について】

- ◆ 窓口で即時で資格情報が確認できれば有効
 - 返戻・再請求への対応は職員負担が大きい
 - 保険者が以前のように電話で資格情報を教えてくれなくなっている
- ◆ 診療所では、カード携帯義務付けが課題となる場合も
 - 現状、顔なじみのため、資格情報が判明している

【診療情報・健診記録閲覧について】

- ◆ 診察室で医師と一緒に見るスタイルが有効
 - 自宅での閲覧時に専門用語多い、難しい
- ◆ サービスの利用が特に有効となるシーンがある
 - 糖尿病等慢性疾患を持っている患者が、自分で経過観察を行える
 - アレルギー情報や処方歴の共有 等（歯科・整形外科等）
 - 救急や初診で、血液型・処方歴等ちょっとした情報でもわかればメリット大

2. 4) 社会保障カード(仮称)導入にあたって制度運用面等の課題

◆制度等に関して

- **個人情報提供、セキュリティポリシー**等に関する連携先との事前調整
- 特に医療保険では、全保険者が**足並みをそろえた取り組み**が必要
- 個人情報の提供に係る同意が一括で可能となる方策

◆運用に関して

- **人間系のセキュリティ対策**(ヒューマンエラー等)。
→帳票への記入や、デジタル化の際の目視比較等を排除する仕組みが必要。
- **カード交付・管理は、交付職員の負担軽減が必要。**(IT化、業務改善)

2. 4) 社会保障カード(仮称)導入にあたって制度運用面等の課題

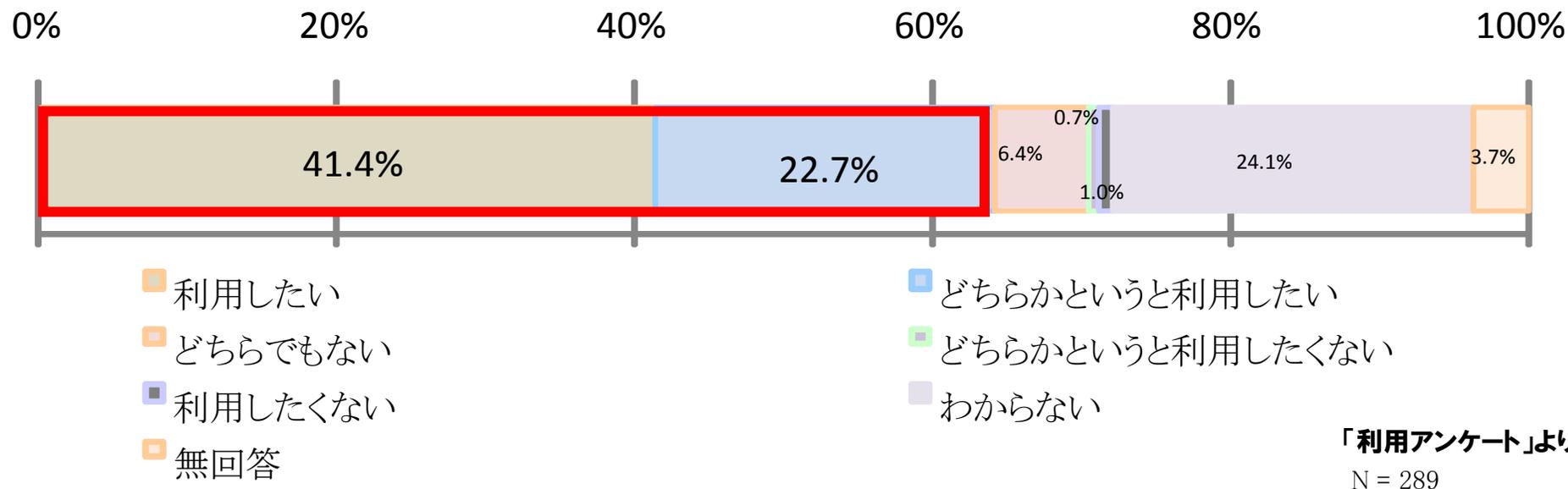
◆利用者の利便性に関して

- **高齢者等の利用**では、パソコン操作を要しない仕組みが必要
→ 自宅でカードを運用できなくてもメリットのあるサービス
→ 生体認証の活用
- 子どもや高齢者には、**家族等による代理照会**ができる仕組みが必要（保護者、介護者によるサービスの利用）
- 携帯電話、テレビ(地デジ、CATV)等、パソコン以外で普及しているデバイスへの展開が望まれる
- 救命救急時などの例外的な利用の在り方
- アクセシビリティ・ユーザビリティの基準の整備・活用が望まれる

2. 5) 発展的活用の検討（サービス継続に対するニーズ）

【利用者アンケート】

◆ 回答者の64%が、サービスを継続的に利用したいと回答している。



【サービスをより良くするためのご意見】

- ◆ 参加医療機関の拡大（圏域内・圏域外とも）
- ◆ サービス拡充（データの開示期間拡大、画像情報、数値に関する説明・コメント）
- ◆ 各種カードの統合（保険証・金融系カード、身分証明書としての利用）
- ◆ 年金情報は、本人のデータで試算できるように

→ 継続した取り組みを実施することとした。

2. 5) 発展的活用の検討（今後の取り組み）

◆システム運用・サービス提供の継続

◆新コンソーシアム立ち上げ

- ・島根大学医学部附属病院が新たに参画
- ・将来的な活用に向けた検討

◆参加医療機関の拡大に向けて

- ・利用状況・有効性の調査の継続、**利用促進策**の実施等
- ・情報セキュリティ及び個人情報に関する**ポリシー・手順等見直し**
- ・**サービスレベル**に関する検討
- ・接続ルール等・標準インターフェース仕様の策定
- ・継続的なサービスへ向けての**計画とりまとめ**

3. まとめ

- ① ICカードや中継DBを適用し、**技術的有効性を検証**できた。
- ② 社会保障カード(仮称)の仕組みを適用することによる**地域医療連携のIT高度化・住民のメリット**が検証できた。
 - ◆ インターネットを介した安全な住民への医療情報開示
 - ◆ ICカード認証による医療機関従事者セキュリティレベル向上
- ③ 利用者の利便性の観点から、中継DBの機能として付加が望まれる点があった。(家族等による代理照会の概念等)
- ④ 本実証事業の成果・経験と利用者の声に耳を傾け、地域に対して継続的に、より**最適なサービスを提供**する必要があると考えており、更なる発展を目指したい。